

Subject : **Japanese**Production of Courseware
e- Content for Post Graduate CoursesPaper No. 02 : **日本語学 (Japanese Linguistics)**Module 18 : **とりたて (Toritate: Focusing and Defocusing of Words, Phrases, and Clauses)**

ज्ञान-विज्ञान विमुक्तये


**Development Team****Principal Investigator:** **Prof. Anita Khanna**
Jawaharlal Nehru University, New Delhi**Paper Coordinator:** **Prof. Prashant Pardeshi**
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)**Content Writer:** **Prof. Hisashi Noda**
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)**Content Reviewer:** **Prof. Shingo Imai**
University of Tsukuba

Japanese

Japanese Linguistics

とりたて (Toritate: Focusing and Defocusing of Words, Phrases and Clauses)

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	とりたて (Toritate: Focusing and Defocusing of Words, Phrases and Clauses)
Module ID	JPN-P02-M18
Quadrant 3	Learn More

 **Pathshala**
पाठशाला
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

とりたて (Toritate: Focusing and Defocusing of Words, Phrases and Clauses)

Quadrant 3: Learn more

さんこうぶんけん

参考文献

寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版.

中西久実子 (2012) 『現代日本語のとりたて助詞と習得』ひつじ書房.

日本語記述文法研究会 (編) (2009) 『現代日本語文法 5 第 9 部 とりたて 第 10 部 主題』くろしお出版.

沼田善子 (2000) 「とりたて」, 金水敏・工藤真由美・沼田善子 『時・否定と取り立て』 pp.151-216, 岩波書店.

Noda, Hisashi (forthcoming) Toritate: Focusing/defocusing words, phrases, and clauses. Masayoshi Shibatani, Shigeru Miyagawa and Hisashi Noda (eds.) *Handbook of Japanese Syntax*. De Gruyter Mouton.

Interesting facts

にほんご じょし あらわ い み おお わ るいじ たいひ げんてい
日本語のとりたて助詞が表す意味は、大きく分けると、「類似」「対比」「限定」

れいじ きょくたん ふつう の
「例示」「極端」「普通」の6つになることを述べた。

にほんごいがい おお げんご るいじ げんてい きょくたん い み あらわ けいしき
日本語以外の多くの言語でも、「類似」と「限定」と「極端」の意味を表す形式

も ひかくてき つか えいご るいじ あらわ
を持っていて、比較的よく使われる。英語では、「類似」を表すときには too や also

つか げんてい あらわ きょくたん あらわ
が使われ、「限定」を表すときは only などが、「極端」を表すときは even などが

つか
使われる。

しかし、かなり多くの言語では、「対比」と「例示」と「普通」の意味を表す形式も持っていなかったり、持っていたり、あまり使われないようである。「対比」の意味は、対比する成分を文の前のほうに置いたり、強く高く発音したりすることによって示し、「例示」と「普通」の意味は語用論的に示すことが多い。

語用論的に示すというのは、日本語では「例示」の意味を表す「でも」を使って (1) のように言うのに対して、他の言語では「例示」の意味を表す形式を使わないで (2) のように言うということである。言語によっては、「例示」の意味を表す形式を使わないで (2) のように言っても、「お茶でなくても、コーヒーでもよい」というような意味が語用論的に感じられることがある。

(1) お茶でも飲みましょう。

(2) お茶を飲みましょう。
